

～「一貫教育校実現に向けての保護者アンケートPart2」の集計結果報告～ 小中一貫教育校への理解をみんなで一歩ずつ！

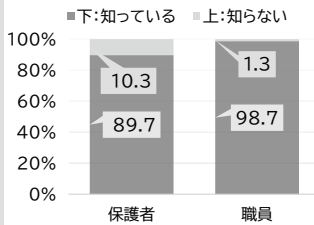
集計結果の
詳細はこちら→



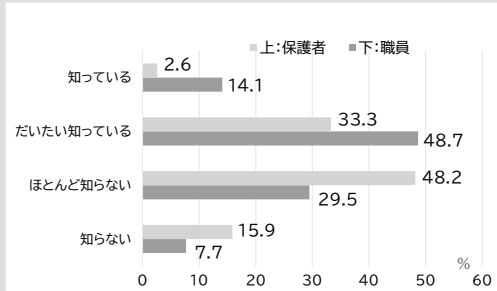
現在策定中の基本構想・基本計画の参考とするため、就園前のお子さんの保護者の方をはじめ、幼保小中の保護者・職員向けのアンケートを10月に実施しました。その集計結果の概要を報告します。

保護者の回収率が、昨年の62.8%から今回は69.8%に伸び、2030年4月開校予定の施設一体型小中一貫教育校(義務教育学校)への関心が、少しずつですが高まってきた様子が伺えます。ご協力、ありがとうございました。

問1 開校計画

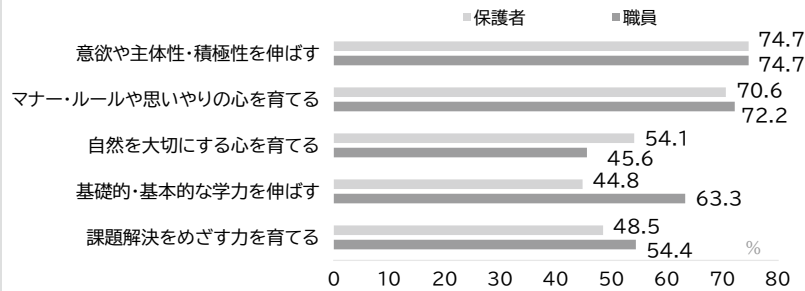


問2 一貫教育校の教育



広報や口コミを通じ、9割近い保護者が開校計画を「知っている」と答えています。しかし、一貫教育校でどのような教育が行われるのか、「ほとんど知らない・知らない」保護者の割合が6割以上を占め、今後様々な機会を捉えて、その内容を周知していく必要があります。

問3 小中一貫教育校で充実させるべき教育（上位5項目）

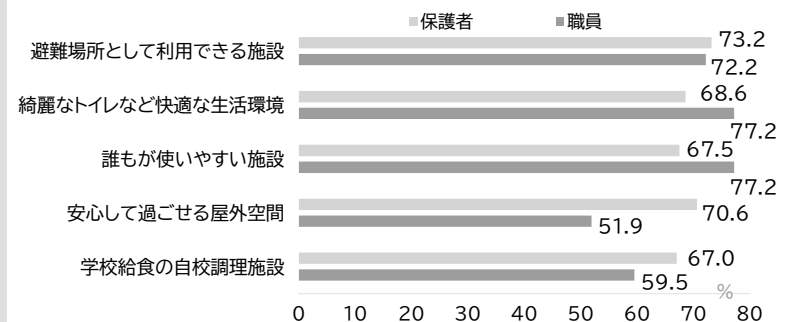


●自由記述(一部抜粋)

[保護者]・年代に対応した教育活動を望みます。・学年の枠を超えた、習熟度による学習ができるように配慮していただきたい。・体験型、プロジェクト型の授業が増えたらよいと思います。
[職員]・自己決定をする力を伸ばす教育。・少人数の決まった仲間と過ごす子どもたちが、仲間の多様性、個性を認め合い、尊重し合える価値観を育む教育。・異学年交流を活かした教育活動。

「学ぶ意欲や子どもの主体性・積極性を伸ばす教育」と「社会のマナー・ルールや思いやりの心を育てる教育」が、保護者、職員ともに70%を超えました。真鶴町の恵まれた自然や風土の中で、地域の方々との協働による体験活動をどう充実させていくのかが、これからの教育活動のポイントになりそうです。

問4 小中一貫教育校で充実させるべき環境等（上位5項目）



●自由記述(一部抜粋)

[保護者]・防犯面(地域に開くことも大切ですが)は、きちんとしてほしいです！・小中の垣根のみならず、教員⇄子ども、住民⇄学校といった垣根も払って対等に関われたら最先端だと思う。・電子機器は家の中で十分。機械に頼らず、自分の頭の中で考え行動できる子どもを育てていきたい。・部活動(中学生)と遊ぶ場が危なくないよう確保してほしい。
[職員]・校舎の周りの住宅に配慮し防音壁を。・豪華な設備や環境は必要なく、清潔でシンプルな施設が、結局は手入れ(掃除)がしやすく様々な使い方に応用できる。・児童・生徒の第2の居場所。

保護者から最も期待されている環境は、「防災・防犯設備が整い、地域の避難場所としても利用できる施設」、職員から最も期待されている環境は「快適な生活環境」と「誰もが使いやすい施設」でした。子どもや職員にとって安全・安心で、毎日を快適に過ごすことができる環境が求められています。なお、「地域コミュニティとして町民の活動や交流ができる空間」の充実を望む声は、全体で23.1%でした。